

「宮城厚生協会新入職員集会」開催

93名のフレッシュな仲間を迎える



あいさつする水戸部理事長

厚生協会だより

2011年5月21日
第 307 号

発行
(財)宮城厚生協会

〒985-0835
宮城県多賀城市下馬
二丁目13番7号
TEL 022-361-1113
FAX 022-361-1124
発行人：長 澤 清 光

4月1日に、坂総合クリニック1号館8階会議室で「宮城厚生協会新入職員集会」が開催されました。震災の影響で参加困難な職員もいるために、従来のように一同に会しての「辞令交付式」はできず、今回は集会となりました。この日は新規採用者93名中70名が参加しました。

○理事長あいさつ

「社会人としてのスタート」
「地域復興のスタート」が
刻み込まれる重要な日

宮城厚生協会理事長 水戸部 秀 利

3月11日、戦後最大の地震とその後の巨大津波が東日本太平洋岸を襲いました。たくさんの方の命が奪われ、かろうじて生き残った方々も家族や生活基盤を失いました。いまだ、

瓦礫や冷たい海の中で、行方不明になっておられる方もたくさんあります。引き続き原発事故のため、捜索すらできないままになっている地域もあります。



犠牲者への黙とうが捧げられました

はじめに震災で亡くなられた方への1分間の黙とうが捧げられました。
水戸部秀利理事長と新入職員代表の伊藤佳菜看護師のあいさつ(概要)を紹介します。

「命と生活の誓い」について

宮城厚生協会は、「命の平等」をかげ約60年の歴史を持つ医療・福祉の事業体です。現在4病院11診療所、11訪問看護ステーション、6ヘルパーステーションで事業を行っています。1100名余の職員と、3万5千人あまりの共同組織の力に支えられています。

震災直後から、それぞれの事業所は、全日本民医連の大勢の仲間の支援を受けながら、「命と生活の誓い」として地域の方々と共に、走り続けています。

同時に、被災された地域の人々の救援のため、連日、避難所や地域を回り、健康面の管理の手助けをしてきました。

被災から3週間。災害救急救命中心の医療から、被災者の生活を支え、劣悪な環境での災害関連死や病状悪化を防ぐ予防活動が次の重要な課題になっています。

今回の震災は、長い道のり

の復興になります。さらに原発事故も重なり、先の見通せない状況もあります。

今日4月1日は、みなさんの「社会人としてのスタート」と「地域の復興のスタート」の二つが刻み込まれる重要な日です。そのような中で、みなさんに、二つの事をお願いします。

二つのお願い

一つ目は、専門職として緒先輩から学び「困っている人々に寄り添い、ともに歩む」という民医連職員としての魂・原点を学び引き継ぎ、被災された地域の方々の生活再建に力を貸してほしいことです。

二つ目は、この災害の復興・再生は、単に元に戻すのではなく、日本のあり方を根本から問いかける再生が必要であり、それを担っていくのが皆さんたちであり、そういう自負を持っていたきたいということです。

ともに力を合わせ、困難を乗り越えましょう。

2011年度 宮城厚生協会新入職員集会 新入職員代表あいさつ

未来にたくさんの笑顔が

ありますように

坂総合病院看護師 伊藤 佳 菜



あいさつする伊藤佳菜看護師

3月11日。私は学校のあ
る石巻にいました。海が近
くない場所でも、一帯が浸
水し4日間外に出られず、
食料や水などの入手は困難
でした。1週間以上経って
もライフラインが復旧せ
ず、今までの普通の生活が、
どんなに幸せだったか実感し
ました。3年間の通学路や町
並み、学校生活の想い出の場
所はどこにもありません。
若林区荒浜に実家がありま
す。地震から10日目に見た光

景。私の育った場所はありませんでした。涙と震えが止まりませんでした。ぐしゃぐしゃになり逆さになった車があふれ、家の屋根や瓦礫の山が辺り一面に広がり、私の帰る場所はどこにもありませんでした。家は基礎しか残っていません。

忘れてはいけない

「人のためになる仕事がない」と思い志した看護師への道。いざ災害が起きてみると何もできない自分。そんな自分が無力で悲しくて情けありませんでした。私はいま家族と新しい場所で生活を始めています。

悲しい事に、今の環境に慣れ、落ち着くと、時間と共に記憶は薄れてしまいます。引きずってばかりはいられないけれど、忘れたくない、忘れてはいけなくと強く思っています。

大切な人を亡くした人、家や故郷を無くした人、地震の恐怖に怯えた人、沢山の人の

が被害に遭いました。しかし同時に、人の温かさ、繋がりを感ずることもできました。失ったものは多すぎて、大きすぎますが、その中でも得たものはあるはず

「笑顔は無敵」

笑顔は伝染する

たくさんの辛い・悲しい・苦しい思いをしたからこそ、私たちにはその思いを分けてあげることができないのではないかと思います。一人一人ができることはちっぽけでも、それが集まると大きな力になります。

「笑顔は無敵」。笑顔は伝染すると思います。だからこそ、私は笑顔のある、そして与えられる看護師になりたいと思います。

今回の経験を今後の看護活動に活かせるよう、精進していきたいと思っています。

これからの未来に、たくさん笑顔がありますように……。

長町病院附属クリニックの

大震災被害状況と今後の対応

40年の歴史に幕を閉じる

長町病院副事務長

花木かよ子

クリニックの建物も40年の歴史に幕を閉じます。解体工事も開始となりましたが、懐かしい元職員みなさんが激励がてら訪棟してくれています。

歩み

1971年にこの地に病院完成（中央棟。長町1丁目から移転）。1982年に増築（医局・放射線・生理検査側）、1988年に増築（総務・管理側）、1999年に現在の長町病院の新築と同時に耐震補強しつつ、附属クリニックとなりました。2008年に仙台市からの補助金もあり

地域予防拠点と併用の疾病予防施設も作られていました。

損壊状況

4棟各々の間のエキスパンション・ジョイント部が全階・全位置で損壊・大破。棟間の床段差が生じ、棟の浮沈、梁の損傷もみられ、築年数などから再利用を断念しました。11日当日は、通所の利用者50

数名含め患者、職員が無事避難できたことが何よりでした。建物内の貴重な財産の病院側、倉庫への引越し作業も全国の皆さんの支援も得て進んでいます。

それぞれの機能の

対応状況

健診センターは、一時避難していたクリニック隣の川熊

マンション2Fから泉病院付属1丁目クリニックの2Fに移り再開しています。

附属歯科は、4月一杯、同じく隣のマンション2Fで臨時ユニットを稼働させ、往診を展開していましたが、クリニック廃止により、古川民生病院歯科に職員が移動しました。歯科衛生士2名が長町病

院に移り、摂食機能訓練指導や仙台市委託事業などに関わってもらう予定でいます。

長町訪問看護ステーションほほえみは、長町病院裏の橋本ハイツ3Fの1室を借り、ながまちヘルパーステーションは、医師駐車場の大家さんの空家となっている一軒家を間借りし、事業継続していま



す。ほっと亭もそこで配食サービス開始しています。介護システム端末、ISDN回線、いくつかのFAX機器も足りず共用しています。

附属クリニックとして実施していた通所サービス3単位分は、1単位分のスペースを病院5Fリハスペースの一角に移動し、5月から新規通所リハとして再開されました。

疾病予防施設のびのびは、閉鎖し、機器を坂のびのびや通所に提供しましたが、健康運動指導士1名は在籍し、糖尿病の運動指導を病棟ロビーやデイルーム、外出訓練などで継続すると同時に、仙台市の特定高齢者通所事業を病院に契約変更し、3階病棟デイルームでの実施に力発揮して



もらっています。

在宅看護室、ケアマネ室は5Fの言語訓練室を間借りし、継続業務実施しています。訪問系は歩いて自転車で在宅の要援護者に食料含め物資届けにも奔走しました。

友の会室はクリニック隣の川熊マンション2Fに移っています。旺盛に展開していたサークル活動は病院横の蛸薬師境内の集会場などをお借りし、開始しているものもあります。さらに病院5Fの通所スペースも土日活用し、運動教室やうたごえなどに活用予定でいます。

附属クリニック外来診療は、病院1階のスペースを改修し、診療単位も午前から午後に移すなどして、継続して



います。予約が4月末から実施できるようになり、定期検査も開始となりました。

検体検査室は生理検査室と一緒に、病院旧リハ外来を改修し引越し完了しています。放射線室の一角は、レントゲンフィルム庫になりました。

た。健診業務も健診センター移動により、システム購入と同時に病院に契約移行し、機能整備を開始しています。

まだ、事務長室や看護部長室、健康管理室など多くの事務所機能が独立途上ですが、他部署と共存し、稼働してい

ます。

.....
クリニック棟の跡地利用に関しては、職員間の議論を開始しています。友の会はじめ地域の皆さん、協会・県連内の議論で展望を切り開きたいと考えています。

大震災 若林クリニックの取り組み

「地域に寄り添い、励ましあいながら、診療所として求められる役割果たす」

若林クリニック事務長

加藤 隆雄

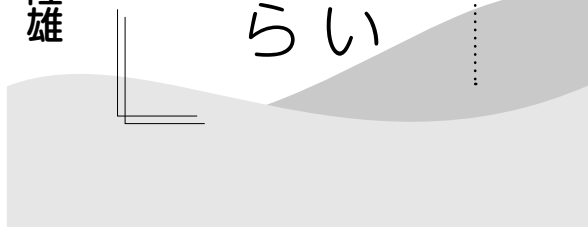
全員が走って

六郷小学校に避難

「在宅患者さんの安否確認をしなければ」。職員で分担

3月11日(金)午後2時46分。マグニチュード9.0。過去に経験したことのない激しい揺れ。「クリニックが倒壊する」と脳裏を過ぎった。

カルテ棚が倒れる音。パソコンが、プリンターが倒れ、破損する音。「ガシャーン」とガラスが割れる音。「また揺れた!」繰り返す強い余震。



とても書ききれない 悲惨な対話ばかり

3月14日(月) 早朝から、患者さんが駐車場に列をつくて待っていた。しかし、ク

し、訪問する計画を立てた。しかし、その直後、「津波が来る。六郷小学校への避難指示が出た。早く！早く！」。近隣住民(顔見知りの患者さんも)が、クリニックに走って来た。在宅患者さんの安否確認は断念し、職員全員が走って六郷小学校3階に避難した(その直後、海岸周辺地域が壊滅的な被害を受けたことを、後で知った)。



リニック内は足の踏み場もないほど機器や医療材料、カルテなど散乱。診療システムが破損し、過去の診療内容がわからない。レントゲン設備も使用不能になっていた。

「着の身着のまま非難した」「津波と車で競争して逃げた」「〇〇さんは元気だ」「家族の安否が不明だ」「自宅が倒壊し何もなくなった」「街全体がすっかりなくなった」など、来院患者さんの多くが住む家を失い「避難所生活」。家族別々の避難所で生活する患者さんもある。とても書ききれない悲惨な対話ばかり。甚大な大震災だったことを物語る。

つばさ薬局若林店も大きな被害を受け、薬品確保も困難な状況にあるが「なんとかして、定期薬は処方できるようにしよう」と確認。平尾所長を先頭に、クリニック待合室での診療を開始。しかし、ガソリン供給不足は極めて深刻。職員全員がそろって出勤できない。分乗通勤や日毎の

交代通勤で最低限の職員で診療を継続。

感謝の言葉が ありません

震災直後から、長町病院、県連、他県連の皆さんの支援を受け「在宅患者、ケアマネ利用者、気になる患者さん」の安否確認と臨時往診。近隣の避難所への訪問と出張診療。クリニック職員だけではとても動かせない機器移動と復旧作業。散乱したカルテ整備など実施できました。その後も、継続的な地域訪問や物資支援などのご支援をいただいています。若林クリニック



職員ら名「感謝の言葉がありません」。

震災から1ヶ月半が経過し、遅れていた「ガレキ」撤去開始。し

かし、来院患者さんや地域の皆さんが、肉体的に、精神的に、そして経済的にも安心できる日常生活に戻るまでは、まだまだ時間がかかりそうです。長期間の復興活動となるでしょう。

この地域に存在する「民医連診療所」として、今こそ地域に寄り添い、互いに励ましあ

いながら、診療所として求められる役割を、地道に、粘り強く果たさなければならぬと考えています。





「最近読んだ お薦め本」

古川民主病院歯科 宮井 靖



通勤時間によく読書をしています
が、乗り過ごしてしまつほど入り込
んでしまつ、そんな面白い本にはな
かなか出会えません。そんな中で、
最近読んだお薦めの本を何冊か紹
介いたします。

1冊目は、今野敏著「隠蔽捜査」。
題名のとおり警察物ですが、不器用
な男の生き様とその周りの登場人物
が小気味よく描かれていて、読者を
あきさせません。続編で「隠蔽捜査
2、3」も出版されていますので、
こちらも是非。

2冊目は、百田尚樹著「永遠の0」。
結末が感動的に描かれる、一人の戦
闘機乗りの物語。昨年の本屋大賞受
賞作品です。他に高校ボクシングの
世界を書いた「ボックス」も読みや
すく、最近注目の作家です。

最後に、さだまさし著「解夏」。
美しい歌を作る人は、こんなにも美
しい物語を書けるんだなあ。映画に
もなった表題作
のほか、短編集
ですがどれもハ
ンカチなしには
読み進めない感
動作です。お暇
な時にどうぞ。



宮城厚生協会職責者のための学習会開催

「職場での精神健康管理活動の推進 「健康で働き続けるために」

労働安全衛生委員会 鈴木 悦代

2月中旬に、坂総合クリ
ニック1号館8階会議室で、
広瀬俊雄先生(錦町診療所長・
産業医学センター所長)をお
招きし、職責者を対象に標記
学習会を開催しました。保健
企画など別法人も含め約60名
が参加しました。

●今回の目的

法人各事業所において、心
の健康を害し休業に至る職員
が減らない現状等を踏まえ、
職場でのストレス(パワハラ
含む)に起因する職員の精神



事例を各グループで検討

の健康悪化を防ぎ、健康で働
き続けられる職場づくりの要
となる職責者の役割を重視
し、今回の学習会を企画しま
した。

●学習内容「グループ での事例に基づく演 習」と「学習講演」

学習は、講義だけではなく、
「より身につく勉強の仕方」
にこだわり、5グループに分
れ事例について復職のための
解決策を検討しその結果を発
表しました。

・ ・ ・

その後、広瀬先生から検討
結果へのコメントや、健康で
働きがいのある職場づくりと
職責者の役割についての講義
がありました。以下概要をメ
モ的に紹介します。

*6割の同僚部下は、「強い
ストレス」を感じながら働
いていることを認識すること
が大事。*仕事の量は過重に
なっていないか、職場の活



広瀬先生が講演

気・やる気が落ちていない
か、「職場状態を評価」しメ
ンタル障害につながる「要因
を減らす」。*職場診断やう
つ状態のチェックポイントに
ついて、労働時間が長くな
るとストレスは高くなり、睡眠
が5時間を切るとメンタル障
害は健康障害発症が高くな
る。*労働条件を改善する
ことで半分に減らせることが
できる。*個人でなく職場と
いう要因に目をつけることが
重要。また、すぐできる事と
抜本対策は別、後日に今後相
談していくことを伝えるのが
大事。等々、触れられました。
・ ・ ・
皆さんのヒント、元気の
出る講演でした。
今後同様の学習会を企画
し、すべての職責者の修了を
めざし、健康で働き続けられ
る職場づくりを、職責者の意
識づくりから進めていきたい
と考えています。